

会 議 要 録

会 議 名		平成 30 年度 第 1 回 小平市青少年問題協議会
日 時		平成 30 年 6 月 1 8 日（月）午後 1 時 30 分～午後 2 時 55 分
場 所		小平市役所 6 階 大会議室
出席者 等	委 員	1 2 名（欠席者 5 名）
	事務局	子ども家庭部長、家庭支援担当課長、生活支援課長、地域学習支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1 名
会議 内容	1 委嘱状交付 2 新委員自己紹介 3 開 会 4 議 事 （1）平成 3 0 年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について 5 情報交換・意見交換 6 その他 7 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 資料 1 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料 2 平成 30 年度 子育て支援課 子ども・若者関連事業概要 資料 3 平成 29 年度 子ども家庭支援センター 相談件数 資料 4 子どもの学習支援事業 資料 5 地域学習支援課 子ども・若者関連事業概要 小平市ティーンズ相談室「ユッカ」 平成 30 年度 小平市子どもの学習支援事業 個別学習教室 青少対ってなあに？ 小平市青少年委員だより はつらつ こだいら保護司だより こころの東京革命 平成 30 年度版「家族ふれあいの日」 青少年指導者用 人権尊重の社会 ひらく - 未来をひらく、心をひらく -	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

（1）平成 3 0 年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について

委 員	ティーンズ相談室の開設時間と職員体制は。
事務局	ティーンズ相談室の開設時間は、水曜・金曜で午後 1 時から午後 7 時まで、土曜日は午前 10 時から午後 6 時までである。木曜日は、電話相談のみで午後 1 時から午後 6 時までとなっている。職員体制は、3 名でのローテーションにより常時 2 名が勤務している。また、職員は、社会福祉士や保育士、放課後児童支援員認定資格等をもっている。

委 員	平成 30 年度予算について、青少年関係事業の中で前年度と比較して減少した事業はあるか。
事務局	子ども家庭部では、平成 30 年度予算は前年度並みである。新規事業であるひとり親家庭等学習支援事業やひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業の増加分を含んでいる。
事務局	地域学習支援課関連では、平成 30 年度予算での大きな増減はないが、補助金の見直しにより、青少年対策地区委員会、子ども会育成者連絡協議会、青少年吹奏楽団への補助金が約 2 % 減となっている。
委 員	資料 3 の子ども家庭支援センターの不登校相談と資料 2 のティーンズ相談室の不登校相談件数の違いは。
事務局	子ども家庭支援センターは、虐待対応が中心業務であるため関係機関や近隣からの虐待関係の相談が多くを占める。ティーンズ相談室は、中学生から 19 歳の方までのさまざまな相談を受けるほか、学校や家庭で自分が落ち着ける場所がない方が、いつでも来られる居場所としての機能もある。何かをすぐに解決するというのではなく、悩みがあれば相談員が受け、成長を見守り、自分で状況を変えたいと思ったときに、じっくり取り組めるように支援している。このように、ティーンズ相談室は、子ども家庭支援センターと違った機能、特色をもった事業となっている。
委 員	資料 3 子ども家庭支援センター相談件数の中で、養護相談のその他の相談とはどのようなものか。
事務局	資料 3 養護相談のその他の相談は、虐待に至らないものや保護者が病気などで子どもの養育が困難な家庭の相談などである。
委 員	資料 2 5 子ども食堂のあり方の検討について、現段階で決まっていることがあるか。また、ボランティア保険を支援することなどは考えられるか。
事務局	子ども食堂のあり方の検討は、ゼロベースで検討するものである。先進事例の研究や市内の子ども食堂に関わっている方たちから意見を伺いながら、どのような関わり、支援が良いのか今年度中に検討する予定である。
委 員	姉妹都市小平町との青少年交歓交流事業について、これまでの子どもたちの感想や成果は。
事務局	姉妹都市小平町との青少年交歓交流事業は、今年度で 40 周年になる。また、昨年度までで 2,500 人を超える参加人数となっている。小平町への訪問時には、小平町の自然を活かした海洋スポーツ体験、キャンプ、化石発掘などのプログラムを実施している。小平市に迎える場合は、ブルーベリー摘みや平櫛田中彫刻美術館などを訪問し、交流を深めている。子どもたちからは楽しかったとの感想をいただいているが、過去に事業に参加した方たちが今も交流をしているとの話があり、両市町の理解を深め、自らを見つめ直し、仲間を増やすことに貢献できているのではないかと考えている。
委 員	子どもがこの事業に参加したことがあるが、今も小平町をととても身近な存在に感じていると話している。

委 員	資料3 児童虐待相談について、0～3 歳児の相談の内容は。
事務局	児童虐待相談については、関係機関からの相談・通告が多い。身体にキズやアザがあることなどで保育園や学校などから相談がある。心配なことがあれば子ども家庭支援センターに相談するように関係機関に周知している。また、昨今の事件により近隣の方の意識が高まっていることもあり、相談・通告が増えている。
委 員	資料5 P3 学校施設の遊び場開放について、保護者の付き添いのある幼児とあるが校庭で遊ばせているのか。また、利用人数は。
事務局	遊び場（校庭）開放は、幼児から中学生までが利用することができる。利用人数は、平成28年度19校で134,852人が利用した。
委 員	遊び場（校庭）開放を見ていると、利用人数が多く、混雑しているように感じるがどのように安全を確保しているのか。
事務局	遊び場（校庭）開放では、全校に監視員を一人配置し、監視員が利用者に危険な場所での遊びや球技などをしないよう声かけをしている。
委 員	子ども食堂のあり方について、いつ頃までに検討するのか。
事務局	今年度中に市の考え方を整理したいと考えている。
委 員	市内の子ども食堂に行くことがあるが、運営している人たちは苦勞しているので、現場の人たちの話を聞いてほしい。
委 員	子ども食堂は、子どもたちと一緒につくったり、子どもたちにも手伝ってもらったりするなど自立できる要素が大事である。与えられるだけでなく、一緒になってやっていくことが必要ではないか。
委 員	海外の都市との姉妹都市の締結は考えているか。子どもたちが海外での体験ができるチャンスとなる。
事務局	市では現在のところ、海外の都市との姉妹都市は考えていないが、子どもたちの体験活動の一つとして、参考意見として承る。
委 員	青少年委員の活動の内容は。
事務局	青少年リーダー養成講座での指導や姉妹都市小平町との青少年交歓交流事業での引率や生活・レクリエーション指導のほか、青少年音楽祭の企画運営などを行っている。また、成人式実行委員会でのオブザーバーも担うなど、さまざまな場面で活躍している。

2 情報交換・意見交換

委 員	<p>保育園で働いている中で、もっと子育てに手をかけたいと思っても仕事をしないと生活できない状況を目にし、大変であると感じる。</p> <p>高校生以上の子どもたちと関わる機会があり、高校生の時に不登校になり両親もどうしていいかわからなかったと聞いたことがあった。当時はティーンズ相談室はなく、相談先を伝えられなかったこともあり、もっと勉強していきたいと思った。</p>
-----	---

委 員	<p>青少年対策地区委員会の補助金が減ったことについて、活動するのに現場の人は大変ではないかと思う。</p> <p>公共施設の建替え時に青少年が使える防音施設の検討をしていただけたらいいと思う。</p>
委 員	<p>関西で地震があり、知人が大変怖い思いをしていると連絡があった。このような時には、子どもの安全が一番大事と感じる。学校が終わった後、学童クラブにいても安全が確保される体制が整っていると安心である。</p>
委 員	<p>子ども家庭支援センター、ティーンズ相談室でもボランティアをしたことがある。ティーンズ相談室は、自立を無理に進めるわけではなく、リラックスできる居場所として運営されている。家でひきこもっているよりも、心の自立や学習への意欲がわいてくるのではないか。ティーンズ相談室がもっと周知されていけばと思う。</p>
委 員	<p>児童虐待について、もっと気軽に相談できるよう広めていきたい。</p> <p>企業主導型保育園は、就労や就職活動をしていなくても預けられるので、小平市にもできればいいと思う。</p>
委 員	<p>子どもたちの国際交流を推進できればいいと思う。文化・考え方などの違いを認め合ったうえでものを考えることが大事である。子どもたちに国際交流ができる機会を増やしてほしい。</p>
委 員	<p>20年前に不登校の子どもだった方に久しぶりに会い、話をする中で、中学までの学びなおしの場がないことがわかった。今の子どもたちの学びの場のほかに、大人の学びなおしの場も考えてほしい。</p>
委 員	<p>再犯の防止等の推進に関する法律が施行され、市町村では地方再犯防止推進計画の策定が努力義務とされたので、小平市でも積極的に取り組んでほしい。</p> <p>仕事に就くことが再犯防止につながるため、保護司会では、事業者へ刑務所退所者を雇用する協力雇用主になってもらうように積極的に取り組んでいる。</p>
委 員	<p>学校では、特別な支援を要する子どもが増えている。虐待はつかみきれないこともあるが、自傷行為は学校で分かることがある。子どもの情報を共有するため子ども家庭支援センターと密に連携をする必要があると感じる。</p> <p>小平市では、市立中学校にスクールソーシャルワーカーが週2日配置されていて、特別な支援を要する子どもへの対応がきめ細やかであり、子どもの育成にしっかり取り組む市の姿勢が感じられる。</p>
委 員	<p>市内の都立高校には小平市の子どもも通っているがその数は増えており、子育てしやすい環境であると感じる。</p> <p>高校の様子は、一時期に比べ落ち着いてきている。生活指導で大変だと感じる生徒はいないが、特別な支援を要する生徒は一定数いる。高校では、スクールカウンセラーが配置され、相談体制は整備されているが、家庭内での保護者の問題については学校には相談されない。そのため、子ども家庭支援センターとの連携が大事と考える。</p>
委 員	<p>委員のみなさんの意見を伺い、さまざまな問題があることがわかった。</p> <p>青少対では、次の担い手がなく高齢化が問題となっている。できる人ができることをやろうと言ってきたが、今後青少対のあり方も問題になってくると思う。</p>